

第 2 章

上越市の将来展望



第2章 上越市の将来展望



2 潜在するまちの力の活用

- 古くから地域に根付き受け継がれ、地域の資源や技術を結集した発酵食品をはじめ、米、新鮮な魚介類、上越野菜、くびき牛や6次産業化⁶に取り組む農業者、加工業者等による加工品は、北陸新幹線の開業により広がる交流圏域からの来訪者に対しても、自信を持って提供できる品質が備わっており、高質な食を提供するまちとして当市を発信することにより、交流人口の拡大を図り、産業や地域の活力向上につなげられるものと考えます。
- また、当市では、長い年月をかけて彩り豊かな歴史・文化・伝統が築き上げられてきました。その価値を、市民が再認識することで、地域への自信と誇り、愛着を高める拠り所になるとともに、市外へ発信することで、当市の知名度の向上、交流人口の拡大を図る地域資源となる可能性を秘めています。
- 平成26年には、高田開府400年という節目の年を迎え、行政や市民、民間企業が総出となり、地域の歴史・文化・伝統を再発見し、その魅力を磨き上げ、市外へ発信する取組が行われました。こうした取組を一過性のものとせず、今後のまちづくりにつなげていくことが重要です。
- 平成27年春の北陸新幹線の開業により、これまで以上に当市への注目が高まる中で、「攻め」の政策・施策を展開する絶好の機会を逸することなく、当市の魅力を強力に発信し、まちの価値と市民生活の豊かさを高めていくことが可能となります。

3 新たなまちの力の創出

- 北陸新幹線の開業と合わせて、上信越自動車道の4車線化、小木直江津航路の高速化も決定していることから、今後、当市の広域交通拠点としての機能が一層強化することが期待されます。これにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック参加選手の合宿会場・練習会場の誘致をはじめ、来訪者の増加や交流人口の拡大に向けた新たな取組の可能性が高まり、まちなぎわいの創出のみならず、医療や福祉、産業、教育等の様々な分野で生活の質の向上を図る取組が一層展開しやすくなります。
- 一方、北陸新幹線の沿線自治体等との新たな都市間競争が顕在化することも想定されますが、当市への建設が決定した県立武道館、長野県をはじめ北関東や北陸方面からも集客が期待できる新水族博物館など、新たな魅力となる都市機能⁸も最大限に活用しつつ、交通の要衝である地の利を発揮し、人や物の流れの中心となっていくことが重要となります。
- また、直江津港周辺では、既に火力発電所やLNG基地⁵が稼動しており、今後、上越沖メタンハイドレート⁷の開発などが実現すれば、エネルギー拠点としての重要性が一層高まる可能性を秘めています。
- 新たな都市機能の整備が進み、当市のまちの力を最大限にいかした「攻め」の政策・施策を展開する絶好の機会を逸することなく、いかに市民が住みやすさを実感できるまちを築いていけるかが課題となります。

北陸新幹線の開業

平成27年春の北陸新幹線の開業により、1時間以内に当市に来ることができる圏域は、現在の6.8倍に相当する約350万人、2時間以内では現在の3.7倍に相当する約3,500万人になると見込まれ、交流可能圏域が関西、中京圏まで大きく拡大することが期待されます。



▲ 新型車両E7系 (河澄写真事務所提供)

上信越自動車道の4車線化

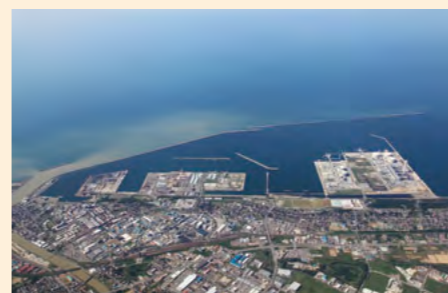
平成24年4月、信濃町インターチェンジから上越ジャンクション間の4車線化事業開始が決定し、同月より東日本高速道路株式会社によって事業が進められており、平成30年度には、全線4車線化が実現する予定となっています。4車線化の実現により、安全で快適に走行できる高速道路ネットワークが形成されます。



▲ 上越JCT (NEXCO東日本提供)

直江津港の利用促進

平成23年11月にLNG部門の日本海側拠点港⁹に選定され、今後は、国内はもとより環日本海経済圏を見据えた国際貿易港として、また、エネルギー港湾としての利用が期待されます。また、広域調査により存在が確認された上越沖メタンハイドレート⁷については、国が平成25年度から本格調査に着手し、平成26年度には、掘削調査が実施されました。



▲ 直江津港全景

小木直江津航路の高速化

新造の高速カーフェリーが、平成27年4月に就航します。これにより、小木・直江津間で片道60分の短縮が図られ、1時間40分で結ばれ、1日2往復(最大3往復)の運航が可能となります。今後佐渡観光の玄関口としての賑わいが期待されます。



▲ 新造高速カーフェリーあかね (イメージ図提供: 佐渡汽船株式会社)

県立武道館の建設

平成26年12月25日、新潟県が「新潟県立武道館(仮称)基本計画」を策定し、上越市への建設に向けて整備事業が進められています。



新水族博物館の建設

楽しみながら学ぶことができ、まちを元気にする一大集客施設として、平成30年春の開館を目指します。

